

水の宝清寺



境内には、毎年沢山の花が咲きます。六十一号より裏面に宝清寺の草花を紹介しています。

春のお彼岸

三月十八日(木)～三月二十四日(水)

毎年二回、春分の日、秋分の日を中心に前後三日間ずつ、合わせて一週間、お彼岸の行事が営まれます。日本で初めての彼岸会は大同元年(八〇六)の事と言われ、先祖が安らぎの世界へ行く事を願って行われている日本独特の行事です。春の彼岸にはご家族お誘い合わせて、「先祖に感謝の気持ちを含めて墓参されることをお勧め致します。」「感謝」と言えば、近頃は、「どうもありがとう」という感謝の気持ちを忘れて「どうもどうも」で済ませる人を見かける。良寛さんが、「ことばについての戒め」として次のことばを残している。

- 一、ことばの多いこと。
- 二、はなしの長いこと。
- 三、てがらばなしをすること。
- 四、自分の生まれや身分の高いことを人にいうこと。



日蓮聖人遺訓 (二二一)

「いのちと申す物は」

一切の財の中に第一の財なり (事理供養御書)

今は、非常に厳しい世の中ではあるが、「おれの生命なんか」と軽々しく考えてはいけない。生きていければ幸せが来るのだと信じて大切にしなければならぬ。「天の加護なきことを疑わされ」である。

五、人がものをいきらないうちに、ものをいうこと。

六、たやすく約束すること。

七、人に物をやる前に、なになにをやるうということ。

八、物をやったことを他の人ということ。

九、よく知らないことを人に教えること。

十、悲しんでいる人のそばで、歌をうたうこと。

十一、人がかくしていることをバラすこと。

十二、目下の人を軽んじること。

十三、部下に荒いことばを使うこと。

十四、心にもないことをいうこと。

十五、などを言っていないときつく戒めて

いる。どれ一つとっても特に現代人には

耳の痛いことばばかりだと思ふ。これら



住職ひと口法話 (二二一)

私は、住職の仕事の他、推薦されて平成六年四月より家庭裁判所に調停委員として勤務し、

十七年目を向かえた。現在も、夫婦関係の調整・遺産相続・祭祀承継など、家事に関する様々な問題の解決に尽力している。僅か十七年ではあるが、申立人の申立の主旨と対応に大きな変化が見られる。勤務を始めた頃は、少なからず、双方が譲り合って問題を解決しようとする姿勢が見られた。しかし、最近では、当事者同士で話し合った結果、自分の主張が通らなかつたから裁判所の力を利用して自分の思いを遂げようとする当事者も増えている。そのことは何も調停に限ったことではない。

近年、いろいろな場面で自分の主張が通らなかつたこと、意見の対立が感情の対立となり、あげくの果てに、「敵対関係」にまで拗れて、親子の断絶や離婚・マスコミを賑わす大事件にまで発展するケースが見られる。人間が自分の考えに捕らわれやすいことは、会議などで意見を求められ、自分は間違っているかもしれない自信のない発言であったとしても、他人から否定されること、最後には、自分の考えが間違っていたかもしれない発言も、自分の方が絶対正しいとなるものだ。世の中の出来事の大いに係わらず、芥川龍之介の作品「藪の中」のごとく「真実が」明らかにならず、グレーな状況で推移することが多々ある。

以前、上田市にある前山寺の石碑に「かけた情けは水に流せ 受けた恩は石に刻め」とあるのを見たことがある。そのことを思いだし、私は、人間関係が希薄になり、孤立した人も多く見られる今日、人と人の関わりについて、家族・友人は当然のことながら、人間関係全般について、「意見の対立が感情の対立」にならないよう「智慧を働かせ」、「相手を尊重し」、前山寺の格言を、人から「受けた恨みは水に流せ 受けた恩は石に刻め」と読み替え、実践するよう心掛ける必要があると思った。

仏事Q&A4

Q 法事について、二つの法事を合わせて行っても良いですか。また、法事の後の会食は必ずしなければいけないですか。法事をむかえるにあたり注意すべきことはありますか。法事に招かれた時はどのようにすれば良いですか。

A 当山では、法事に該当される仏様がいらっしゃる場合、三ヶ月前にお知らせの封書を送付させて頂いています。その際、例えば祖父の十三回忌と母親の七回忌と同じ年

にある場合二つの法事を合わせて営むことがあります。これを「併修」といいます。「併修」は早いほうの命日に合わせるのが原則ですが、故人の思いが強い

一周忌・三回忌は避ける人が多いようです。仏事の来席者に食事を出すことを、

境内には、毎年沢山の

花が咲きます。

六十一号より裏面に宝

清寺の草花を紹介して

います。

Q

法事について、二つの法事を合わせて

行っても良いですか。また、法事の後の

会食は必ずしなければいけないですか。

法事をむかえるにあたり注意すべき

ことはありますか。法事に招かれた時は

- ① 日時を決める。(二〜三ヶ月前)
 - ② 場所を設定する。(寺か自宅か他か)
 - ③ お齊の有無と会場を決める。
 - ④ 案内状の作成と発送。(電話など)
 - ⑤ 引き出物の準備をする。
 - ⑥ 塔婆建立者の確認をする。
- などがあります。法事の日時は満中陰の考えから祥月命日が無理な場合は命日より遅くしないようにします。そのため法事の打ち合わせは早めにするようにしてください。法事には卒塔婆を建てることをお勧めします。卒塔婆を建てることを「塔婆供養」といいます。仏典に「塔を建てて供養すべし」とありますが、生きていくものができる唯一の宝塔建立が塔婆供養なのです。塔婆を建てる功德ははかり知れないとされています。最後に法事に招かれた時の注意としては、案内状や連絡を受けたら、すぐに返事をします。服装は、男性の場合は礼服・略礼服・地味なスーツ。女性の場合は黒やグレーの地味なスーツ、ワンピース。「平服」であってもあまりカジュアルなものはいけません。不祝儀袋の表書きは、四十九日までは「御霊前」年回忌は「御仏前」です。会場には二〜三〇分早めに着くように心掛けるとうまいでしょう。

宝清寺年中行事

三月 彼岸中日・塔婆供養
 四月 八日・花祭
 七月 十七日・孟蘭盆会供養
 七月 彼岸中日・お施餓鬼法要
 九月 十二日・お会式法要

日蓮宗の聖日

二月 十五日・釈尊涅槃会
 四月 十六日・釈尊降誕会
 四月 二十八日・立教開宗会
 五月 十二日・伊豆法難会
 五月 十七日・身延御入山会
 八月 八日・本尊始願会
 八月 二十七日・松葉谷法難会
 九月 十二日・龍ノ口法難会
 九月 十八日・池上御入山会
 十月 十三日・小宗御会式
 十一月 十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交商虫方除星安開
 通繁盛安
 売繁盛安
 厄位祈
 運産
 守守祭願除封願全

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（孟蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。
 このほかにも諸祈願や自動車のお祝い等も行ってまいります。詳しくは寺務所までご相談ください。

管理費納入のご案内

梅の花がほころびはじめ、待ち遠しかった春の足音が聞こえてきました。皆様におかれましては、ご先祖様供養ご喜徳に存じます。

さて、本年も墓所管理費の納入の時期がまいりました。墓所管理費は墓所共有区域である通路、休憩所、駐車場や水場等の管理費として使用させて頂いておりますのでご理解の上、ご納付くださいませうにご案内申し上げます。

なお、ご入金方法に関しては、二通りの方法がございますのでご案内させていただきます。

一つには、管理費をご持参頂く方法と、もう一つは「ゆうちょ銀行」を利用して、口座振替をするものです。

ご持参頂く場合は、毎年三月末日までに翌年度分（平成二十二年四月一日より平成二十三年三月三十一日分）を納付いただく前納制となっております。

もう一つの納入方法である「ゆうちょ銀行」自動振替をご利用する場合は、振替日が毎年四月二十五日前後を予定しております。「ゆうちょ銀行」をご利用頂くにはゆうちょ銀行の口座が必要です。

口座をお持ちでない方は開設していただく必要があります。また、所定の用紙に記入され、「ゆうちょ銀行」に提出して頂くだけで簡単に手続きが済み、毎年自動的に引き落としされますので、遠方のかたには特に便利です。申込用紙は当寺で用意してある用紙をご利用ください。詳しいことは、寺務所までご相談ください。

健康の秘訣

寒い冬が遠のき、心地よい季節が到来するころ花粉がやってきます。花粉症でお悩みの方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。

私をはじめ、寺務をしていただいている寺務員の方で花粉症に悩んでいる方もいます。マスクをしたり、花粉症の薬を飲んだり、あの手の手で対策を施していますが、テキメンで効果が現れる方法にまだ出会っていません。クシヤミを連続すると、ストレスがたまり、思考能力も低下する傾向があるそうです。まして車を運転中に連発すれば事故にもつながり危険ですし、薬によつては判断力が低下するものもあるものなので、服用する場合は医師に相談してから服用されることをお勧めします。

最近では、花粉症の対処療法だけでなく、根本的に改善される薬も研究開発がすすみ、「根治治療」が注目を集めています。従来の方法は、注射を2年間ほど数回に分けて打ち続けなければ改善されませんでした。が、免疫療法として、「舌下減感作療法」という治療が日本では臨床試験中ですが、欧米の厚生省ですでに認可を受けている方法があります。

これは、食パンを舌下に置き、そのパンに花粉エキスを浸し、段階的に花粉症のアレルギー反応がなくなっていくものだそうです。注射の痛みや、定期的に通院する必要もなく、子どもや高齢者の方の負担も軽減できるので、早く認可がおりることを期待しています。一般の方が入手するまでにはあと5年くらいかかるそうですが、花粉症で苦しんでいる方には朗報といえるでしょう。

仏様の話し

先日、セント・パレンティンデールでチョココレートを頂いた。チョココレートを配ることとは、日本だけの最近にできた風習で、本来の意味は別の所にあるようだが、日本中でのこの習慣が定着したようだ。これと似た状況として、節分の恵方巻（太巻きを、今年度の恵方に向けて無言で食べる）風習が関西方面から伝わって、関東でも定着しようである。前者は「縁結び」の行動を神仏に頼るのではなく、実力行使するところに面白みがあるが、時がたつにつれて、女性が近くに存在する男性にチョココレートを「送る日」という、一風変わった習慣になりつつあり、「愛を告白」する日というよりも、「日ごろの感謝を表現する日」に変容してきているようである。

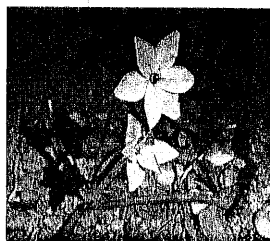
「縁結び」も本来は、結婚する相手を求める祈願ではなく、仏様との「縁」を結び、病気の加護や生活の安泰を願うものであつたが、時代とともに変容し、今なおその風習が生きて続け、パレンティンデールとなつて若者のなかに生き続けているのが面白い。

是非とも探してください。

宝清寺の草花

毎回、宝清寺境内に咲く草花を紹介しております。今回は、仏の座（ほとけのざ）と花誦（はなになら）を紹介させていただきます。最初の写真が仏の座です。変わった名前ですが、お釈迦様がお座りになる台座に仏様が座っているように見えることからこの名前がついたようです。昔の人は想像力が豊かであつたんでしょうね。

もう一つ紹介する花誦は葉が誦に似ており、香りも誦に似ていることよりこの名前が付けられたようです。仏の座も花誦も、ひっそりと野辺に咲く花で、注意して見えないと見過ごすかもしれません。



宝清寺の行き方

